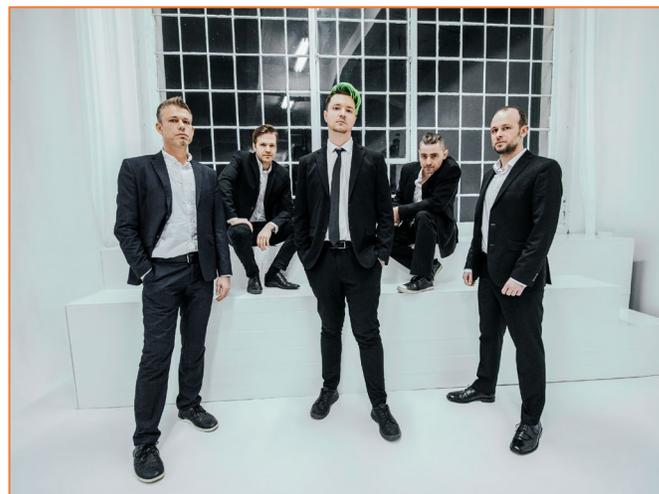
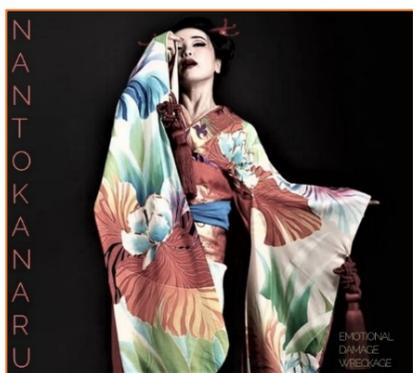


「Nantokanaru は、言ってみたらポストモダンなロックのゴチャ混ぜである。混合物である・・・。そして、一丸となったメンバーはもう最高だ。抜群なリズム感、豊かなメロディー・・・必聴といえよう。じっくり耳を済ますべし。」

以上はチェコの名音楽サイト MusicServer.cz はナントカナルのデビューアルバムについての好評である。また、同サイトは、Nantokanaru を A Perfect Circle や Alice In Chains といったグループに匹敵すると評価している。Nantokanaru はその生音、カタルシス感を残す音をもって挑発的なライブを行うことにより、チェコ共和国におけるオルタナティブなグループの一つとしてその位置を確立してきた。その時から10年後の今、リリース予定の2番目のアルバムの前触れとして、同チェコ・アメリカのクインテットは新しい歌手を迎え、新しいミュージックビデオに3曲入りのEPをリリースする運びとなった。

新しいシングルについて

Emotional Damage Wreckage と名付けられたシングルのテーマは、東京というメガロポリスのコンクリート・ジャングルに埋もれ、感情的に引き裂かれた者である。10年もの東京在住歴を持つイゴル・プルシャ（ギター）自身の経験からインスパイアされた。同曲は憂鬱なボーカルとクラシック・ギターのモチーフと重厚なレリーフと感情的な怒りの激発を組み合わせている。*Emotional Damage Wreckage* は Nantokanaru による、同名の新しいEPの中心となる曲である。アルバムの冒頭を飾っているのは、日本ならではのシンクベーションや因襲にとらわれない音のテクスチャーを背景に、五音音階を使った民謡を実験的に扱い、日本語で歌われる *Omatsuri* という曲だ。EPの最後の曲、*In The Light* は内観的でハーフアコースティックな賛美歌に、チェコフィルのメンバーからなる弦楽器三重奏を特別ゲストとして迎えた。なお、全曲の歌詞は、人生の少なくとも10年間を他国で過ごした作曲家のイゴル・プルシャとデレック・サクセンマイアーの観点から認識した現社会、文化、そして人間関係の赤裸々な批評である。



Nantokanaru について

チェコのクラシック・ギター奏者兼日本研究家であるイゴル・プルシャによって2007年に結成されたチェコ・アメリカのオルタナティブロックバンドである。Nantokanaru はその個性あふれるライブパフォーマンスで瞬く間にチェコで知られるようになった。バンドのメンバーはダーク色のスーツを身にまとい、各ライブにゴーゴードンサーも参加させている。Nantokanaru のデビューアルバム *He Who Dances With Swans* (2008) はチェコの音楽サイト Musicserver.cz によってその年の最優秀デビューアルバムとして最高の評価を得た。同年、チェコ国内音楽コンクール Jack Daniels Music で第1位を獲得し、ナシュビルへの音楽ツアーに招かれた。名プロデューサー Davide Barbe (Deerhunter, R.E.M.ほか) のスタジオで新曲を録音した。2012年に5曲EPである *She Who Plays Shadows* をリリースした直後、バンドは活動を一時停止した。イゴルが「マスメディアにおけるスキャンダル」を研究テーマに、2度目の博士号を習得すべく、東京大学へ移ったからだ。

その10年後の今、Nantokanaru はいよいよ復帰する運びとなった。最新の題材、そして再編成したメンバーで。ギターの Igor Prusa と Derek Saxenmeyer は音楽と歌詞を担当し、ドラムは Michal Grepl、ベースは Vitek Kravacek、そしてメインシンガーとして Filip Vlcek が登場する。バンドの新構成は習慣にとられない取り組みをさらに振興し、その中で生のエモーション、音楽的な実験、そして日本の象徴とが組み合わせられている。